

第3回石狩市地域自治システム検討会議会議録

【日時】 平成25年10月22日(火) 18:00～19:45

【場所】 石狩市役所 401・402会議室

【出席者】 竹口委員、中島委員、貝田委員、嶋田委員、遠藤委員、米倉委員、
羽田委員、北原委員、酒井委員、廣長委員、高野委員、上ヶ嶋委員
久保田課長（社会福祉協議会）
（事務局 森本・山田・清水、畠中、門井）

【欠席者】 池田委員、阿部委員

【オブザーバー】 佐藤教授、加藤部長

【会議内容】

■次第1 開会

■次第2 議事

① グループ討議

～ 事務局から資料説明 ～

《佐藤教授》

事務局から説明がありました地域会議ですが、自治体で色々な形態があります。例えば、札幌市は区民協議会があり、10区を調べてみますとそれぞれやっている事が違います。

幅広く区内の様々な問題を取り上げている区もあります。それぞれ、地域の特徴を表しながら、あるいは反映しながら、区民の声を取り入れようとしております。その点では、こうでなければならぬというより、皆様の自由なイメージから、段々絞り込んでいくのが良いのではないかと考えております。

～ グループ討議 ～

■グループ発表（A班）

《事務局（門井）》

こちらの班では、地域会議の設置についてどう思うかということで主にメリットや期待することを中心に議論したのですが、解決すべきことも同時に挙げられました。まずはメリット、次に解決したい課題や懸念事項をご説明させていただきます。

メリットに関しては、「人」と「組織」についてのメリットに分けたのですが、まずは「人」に関して1番多く出た意見は、検討会議を設置することで、まちづくりに参加する市民が増える期待感、それから地元への愛着感が生まれるのではないかと。また、色々な方の多くの知恵が集まるだろうとか、まちづくりを市民が考えるきっかけになる、それから地域の中の自分の役割が明確になるとか、おせっかいな方が増えることは良いとか、頑張る地域の人材が、力の弱い地域へ波及することで人材が平均化される、などの意見が出ました。

もう一つメリットは、他団体とのつながりと役割分担ができるのではないかとことです。例えば、会員が減少して高齢化が進む団体同士が繋がることにより、各団体役員の方々の一人一人の負担が減るのではないかと、他の団体と連携することにより活動の幅が広がるのではないかと、事業の推進に伴い地域内の連帯感が生まれるだろう、さらには、各団体との横の繋がりにより新しい自治が生まれるという繋がり部分をメリットとして上げている方が多かったです。

「組織」に関しては、行政職員の意識改革が図られる、地域と行政の窓口の一元化により効率的になるという意見が出ています。加えて、住民参加のスタンスで事業を推進することにより、行政との意志疎通が図りやすくなるという意見が出ています。住民の意見が吸い上げられることでコスト面の改善につながる、最終的には地域の要望が実現されることで、地域力が高まり、地域が活性化されるだろうという意見がありました。

ほかには、全ての団体、地域が同時にスタートするのではなく、できる地域から実施することで、そこがモデル地区となり、他の地区への波及効果が期待されるのではという意見もあります。例えば、A地区では課題だと思っていた事柄が、B地区では課題として認識していることを知り、A地区でも課題に気づき、取り組みをスタートさせるかもしれません。こういった互いの気づきにより、社会課題の顕在化が図られることもメリットとして挙げられました。

次に課題や懸念事項について、既存団体とどう差別化するかが挙げられました。地域会議が既に独立した既存団体で構成されると今でも互いに連携を図り活動を行っている団体もあり、現在の連携では何が不十分なのか、そういった懸念もあり、地域会議が設置されることでこれまでの連携とは違う新たな繋がりや仕組みなどを考えなければ、ただ屋上屋を重ねることになり、負担感が増すだけではないか。そのため、地域会議の設置目的を明らかにし、これまでの連携とは違うメリットを打ち出す必要があると思われまます。

それから、先ほどのメリットと相反する意見ですが、まちづくりに参加する人が増えるだろうという期待感はあるつつも、本当に人が集まるのだろうかという不安もあります。これは既に皆さんが様々な活動の中でおそらく実感としてお持ちだと思いますが、人集めの難しさや、本気で取り組んでくれる市民がどれくらいいらっしゃるのだろうかという不安感はあると思われまます。

このように、検討会議の設置にはメリットだけでなく、解決すべき課題や懸念事項がありますので、設置の際には、既存とは違う新たな仕組みや目的を明確にしなければならないと思われまます。

■グループ発表（B班）

《事務局（清水）》

こちらのグループは、A班のグループとアプローチの仕方が全く違っていったかと思われまます。話し合いの最初から、絶対にこの取組みは必要なんだという意見が出て、そこから具体的な話に展開していきました。

なぜ絶対必要なのかと言うと、みんな危機感も持っているし、自治体の借金も増えているし、少子高齢化、個々の団体の活動には限界があることはよく言われまます、これらを助けてくれるのはコミュニティであり、意識や情報の共有が必要という話になりました。特に意識の共有という点では、地域会議の必要性を本当にみんな共有していく必要があると言うことが何回も話されました。

あと、地域の中だけでなく、地域と行政とのつながりも出来てくるし、それにより協力関係も強化されるという話も出ていました。そして様々な情報を、一部でなくて、地域の中や、地域と行政のラインといった、コミュニティ全体でどのように共有してやっていくかということがすごく重要になるのではないかという話も出ました。

一方で、今回のような取組みは必要だと言いつつも課題もあるという話になりました。課題の一点目は、エリアの問題です。学校区とか連町単位が良いのではないかとか、花川北地区は会館毎に今もやっているのもそれが良いのでないか、地区社協単位が良いのでないか、その他にも5～6の町内会が1つのグループを作るというように色々な設定が考えられるという話が出ていました。また、その設定については、誰が決定するのか、それぞれの地域の地域性の違いは大きいので、そこに着目してエリアを検討しなければ既存の活動が分断され、かえって事務量が増えてしまうことが予想されます。エリアの問題は、すごく重要で大切に考えなくてはいけないという話がありました。

もう一つの課題ですが、地域によって課題は違うという点です。例えば、地域によっては人材がない、地域会議を設置した時に誰に声をかけるのか、どのように地域の方に周知していくのか、誰がイニシアティブを取るのか、既に行われている活動自体の調整も大切で必要になってくるのではないかという話が出ました。その他に、団体以外の方の意見の吸い上げをどうしていくのかという意見も出ました。

課題としてはこの2つであり、特にエリアの問題については、この検討会議で決めていいのかという意見も出ました。結論としては、これは必要であり、強引に進めてしまうという意見が最後に出ました。

《佐藤教授》

活発な議論素晴らしかったと思います。最初は、まとまるか心配しましたが、最後は非常に上手くまとめて頂いたと思います。途中色々拝見させていただき、地域会議はそもそも必要なのか、どのように置くのかが一番問題になったと思います。色々な考え方がありますが、かなりきちっとした制度設計をして始めるのか、それぞれの地域ごとに課題が違いますので、それぞれの地域で自分達はこの課題をやるために、多少のばらつきがあっても会議運営を任せることがいいのか、その双方のどちらが良いかは言い難いですが、B班では最後強引にと話しておりましたがそれはどうなのかと思います。

パターンといいますか選択肢といいますか、そのメニューを示すことは1つあると思います。全市一律より、3～4のパターンを示し、それぞれの地域で自分達はこのパターンが良いと考えて頂くことも良いかと思いました。

今も既に連携している地域であれば、既にある資源を有効に活用して、それを形として明確にする。団体が連携し、調整しながら活動しているので不要という話がありましたが、確かにその考え方はあると思いますが、それを地域会議という形式として、まとめていくやり方もある。これは、皆様が考えになる事だと思います。

会長の雑談から、非常に面白いお話を聞いて感激しました。良い材料を集めた、立派なレシピもある、でも、作る人が下手だったら美味しい料理は出来ない。これは名言と思いました。結局は、その地域で活動する皆様がいかに作ってことなんだと改めて会長さんの言葉に関心しました。

最初は、非常にバラバラでまとまるか分からなく、どうなるかと思っておりましたが、最後は時間が経ちますとまとめられていくという事も1つ良い経験だったと思います。

同じ事で、それぞれの地域において、最初は、地域単位で何をしているだという人達が集まり、議論を積み重ねることで、段々まとまっていくだろうと、期待が持てました。

《貝田委員》

先生のお話は大変良かったです。2点ほど市がどう考えるのかなということがありました。

きちんと決めてからスタートするのか、緩やかなものは緩やかにしてスタートするのか、それは、ただ、一つの制度としてスタートする以上は、制度として最低限の条件を満たさなければならぬ。これをどう考えるかです。

それを前提に、私達はこうできる、自分達はこうできるとなった時に、地域割の話がグループ討議が出ておりましたが、これは重要な問題で、同じ様な課題を持って取り組むならば、地域割は飛び地でも構わないのか、テーマ毎の集合があっても良いのか、市としてどのように考えているのか。議論を深めて行けば、この課題になると思います。

《竹口会長》

市の方で考えていることと、正反対なことを行うことはできないということです。

《高野課長》

次回以降に、これらの課題があるという事で決めさせていただきたいと思います。